

# 委員会視察レポート

## 各委員会で先進事業を視察しました。 魅力ある刈谷市づくりに活かします。

### 市民活動基金について(千葉県浦安市)

企画総務委員会 渡辺周二 委員長



ボランティアと協力し環境教育を推進

16年度より坂戸市では、小中学校において坂戸市環境プログラムを活用した環境教育が実践されていたが、環境教育の果たす役割が今後さらに大きくなっていくことから、プログラムの充実と積極的な活用により、学校・教育委員会・市が連携して環境教育の推進に努めている。

特徴としては、「環境学習館いずみ」という環境学習施設の活用を中心としたプログラムがあげられる。「環境学習館いずみ」は、環境に関するさまざまな講座を受講できる学習室・実習室、図書やインターネットを使って自分で調べることができる情報コーナー、自然環境・ごみ・リサイクル・エネルギーなどに関する展示コーナーなどを備えた施設であり、市の職員やボランティアスタッフが指導者となりプログラムを行っている。また、必要に応じて学校への出前なども行っている。

### 環境教育プログラムについて(埼玉県坂戸市)

福祉経済委員会 西口俊文 委員長

浦安市では、市民が行う営利を目的としない自由な社会貢献活動を育成・支援するため、市内の市民活動に補助金を交付する制度を作り、この補助金の基となる市民活動基金を設置している。

目的が定められていることによつて、地域の課題を市民自らの手で解決しようとする公益的な活動を、行政だけでなく市民や企業など地域社会全体で支援することで市民活動の促進啓発にもつながっている。

本市においても、検討がされている制度であるが、実施していくうえで考慮しなければならない課題として申請手続きの簡略化が考えられる。浦安市での交付実績からも同じ団体が複数年度にわたつて助成を受けているように、団体が限られている傾向がある。これは、申請手続きの難しさと審査会の人選にも影響を受けてしまうのでは



地域社会全体で市民活動を支援

ないかと考えられるため、実施するにあたり市民活動をより活性化するためには、申請手続きを簡略化して広く助成を行つていく方法を模索しなければならないと思われる。

そのほか、千葉県我孫子市の提案型公共サービス民営化制度について、東京都江東区の防災センター整備事業について視察した。

### 複数常任委員会所属制度・音声認識システム導入について

議会運営委員会 佐野泰基 委員長



効率的な議会運営を図る

沼津市には、総務経済委員会、文教委員会消防委員会、民生病院委員会、建設水道委員会、一般会計予算決算委員会、特別会計企業会計予算決算委員会の6常任委員会があるが、このうち予算決算を審議する委員会に複数常任委員会所属制度を採用し、全議員を2分して1年交代で審議している。以前は予算決算について特別委員会と審議していたものを、一般会計の予算決算委員会と特別会計・企業会計に係る予算決算の委員会二つに分けて設置したとのことである。

多様な部署にわたる予算を審議できるため小教員には有意義であり、また特別委員会でないものでその都度設置の手続きをする必要がない利点があるが、分野ごとの予算を詳細に議論するためには、常任委員会単位の分科会を設置して審議する方法がよいのではないかとこの面もあると思われた。

また、沼津市では会議録作成の迅速化を図るため、会議録音声認識システムを導入している。議員の発言などが瞬時に文章化される画期的なものであるが、専門用語や方言などの言葉や話す速さを機械に覚えさせるのに多少手間がかかるとのことである。ただし認識した後の事務は、かなりの効率化が図られ、現在では本会議の会議録では90%、95%の精度とのことである。

本市においても、委員長報告を作成する必要から委員会の会議録の作成については迅速さが要求されるため、システムの精度が高まれば本市においても有効なものであると思われたい。今後の課題として検討していく必要もあると考える。

そのほか、東京都小金井市の一問一答方式について、神奈川県横須賀市の議会活性化について視察した。

システムの精度が高まれば本市においても有効なものであると思われたい。今後の課題として検討していく必要もあると考える。

そのほか、東京都小金井市の一問一答方式について、神奈川県横須賀市の議会活性化について視察した。

### 雨水トンネルによる浸水対策について(京都府向日市)

建設水道委員会 蜂須賀信明 委員長

向日市では、急激な都市化の発展により、大雨が降ると水路から雨水があふれ出し浸水被害が発生していることへの対策として、雨水トンネルを整備し「雨にも負けないまちづくり」を推進している。

この雨水排水計画では広域的な視野に立ち、河川、流域下水道、公共下水道の役割分担を明確にし、向日市のみならず京都市、長岡京市も含めて策定されている。

主な施策としては、雨水が水路からあふれる前に分水路から水を取り込む貯留施設の整備や、開発行為の土地利用変更に伴う雨水流出量の増加防止として、事業主へ雨水流出抑制施設の設置などを指導している。また、分水施設から取り込んだ雨水を、京都府が整備を進めるいろは呑龍トンネルへ排水する雨水トンネルなどを建設している。このような施策は水害防止だけでなく、



浸水対策で水環境を向上

く、市民にとって大切な水環境の向上にも寄与するものであるため、本市においても事業を進める上で参考としたものである。そのほか、兵庫伊丹市の防災公園としての笹原公園整備について、広島県三次市の県道の市への管理権限委譲について視察した。



実践的指導で教育の資質を向上

京都市では、小中学校・幼稚園教職員の研修・研究を行う教育機関として総合教育センターを設置している。このセンターはホールのほか研究会事務局や美術・音楽・家庭科などの研修室、カリキュラム開発支援センターや情報交流エリアなどからなっており、教職員の資質や指導力の向上、授業改善の支援に努めている。

中でも京都教師塾では、大学生などを対象として資質や指導力の向上を図るコースや教員経験者を対象とした実践的指導力の向上に主眼を置いたコースを設け、教職員の養成を行っており、他県からの応募もあるほど人気となっている。

現在の教育現場はいじめ・不登校・モンスターペアレント等の課題が多く教職員の苦勞もかなりのものではあるが、一方では教職員のモラルも問題となつているのも現実である。このような施設を通じて教育力を高めるとともに、研修・研究を行い聖職と言われる立派な職員が育つようにする必要があると考へる。

そのほか、大阪府茨木市の茨木市立生涯学習センターきらめきについて、大阪府和泉市の和泉シティプラザについて視察した。

### 京都市総合教育センターについて(京都府京都市)

文教委員会 櫻谷 勝 委員長

### 委員会の動き

各委員会では議案や請願の審査のほか、次のことが話し合われました。

#### 企画総務委員会

##### ◆所管事務調査

##### 刈谷市共存・協働のまちづくり推進基本方針について

市民や地域団体、行政などがお互いを尊重しながら、目標に向け共に協力していく「共存・協働のまちづくり」の推進基本方針について説明がありました。公募市民や地域団体、ボランティア団体などと共に策定し、共存・協働のまちづくりの進め方や課題、体制などが明記されています。

今後、この基本方針をもとに、市民協働を推進するための条例を制定し、共存・協働のまちづくりの積極的な展開を目指します。

そのほか、チャイルドシート貸出事業、新庁舎建設敷地の地盤強度、市職員の5S活動などについて話し合われました。

#### 福祉経済委員会

##### ◆所管事務調査

##### 信用保証料補助金上限額の引き上げについて

刈谷市商工業者事業資金等の融資制度を利用する際に信用保証協会への支払が必要となる信用保証料について、補助金の上限額を10万円から、20万円に引き上げるとの説明がありました。

国の緊急総合対策が実施された10月31日にさかのぼって適用します。

### 議会トピックス

#### ◆議員定数検討委員会

##### 合併問題調査研究会を設置

刈谷市議会では「議会運営等における検討課題」として、議会運営等にかかる課題や改革を議会運営委員会の中で協議しています。その一つとして次の組織を設置しました。ともに法定の委員会ではなく任意の検討会(勉強会)です。

#### 議員定数検討委員会

##### 目的

議員定数のあり方について、調査研究を行います。

##### 構成

- ◎塚本 孝明 ○犬飼 博樹
- 山内 智彦 壁谷 信洋
- 渡辺 周二 西口 俊文
- 野村 武文 成田 正和
- 白土美恵子 星野 雅春
- (◎は委員長、○は副委員長)

#### 合併問題調査研究会

##### 目的

本市の将来について、市民合意を図りながら、更なる発展を目指した市民福祉の向上を目的とするため、市町村合併に対する諸問題を調査研究します。

##### 構成

- ◎岡本 博和 ○安部 周一
- 前田 秀文 新海 真規
- 鈴木 紉男 加藤 誠
- 森田 健資 蜂須賀信明
- 山本シモ子 櫻谷 勝
- (◎は委員長、○は副委員長)

#### ◆文教委員会

##### ◆所管事務調査

給食費値上げ予定の有無、家庭の芝生化、ウイングアリーナ刈谷の回数券、全国学力テストの結果などについて話し合われました。